

インフラ整備70年 講演会(第26回)

～戦後の代表的な100プロジェクト～

「北海道のフロンティアを拓く苫小牧港の開発」

<講演プログラム>

- I はじめに DVD「苫小牧港開港50周年記念」
- II 苫小牧港へ懸ける思い、祖父の意思を引き継いで
- III 苫小牧港整備に至る道程
- IV 国策としての開発とそれを実現する修築計画
- V 掘り込み港湾の建設と第一船入港へ
- VI 時代に応じた利用の変遷と東港区の開発
- VII 北海道経済を支える苫小牧港の現在と
苫小牧市の発展そして未来への展望
- VIII おわりに

<講演者> (講演順)

- 岩倉 博文 苫小牧市長
- 高橋 喜一 元北海道開発局 港湾部長
- 栗田 悟 (一社)北海道建設業協会副会長
(元北海道開発局 港湾空港部長) (司会進行)
- 松田 静雄 元運輸省港湾局建設課専門官
(現 太陽工業(株) 顧問)
- 川合 紀章 元国土交通省北海道局参事官
(現 日本データサービス(株) 副社長)
- 佐々木秀郎 前苫小牧港管理組合 専任副管理者
(現 苫小牧埠頭(株) 顧問)



港ができる前の苫小牧の前浜(明治～大正)

写真提供：苫小牧港管理組合

2021年 **12月16日** (木) 講演会：15:00～17:00 (入室開始予定：14:50～)

場所：ZOOMウェビナーによるライブ配信

定員：1,000名

*本講演会は、建設コンサルタンツ協会CPDプログラムとして認定されております。
申込先：<https://www.jcca.or.jp/infra70/20211216/>

苫小牧港は、港湾建設は不可能とされていた平坦な砂浜の漂砂海岸に陸上を掘り込む工業港湾として建設された。昭和38年に第一船が入港し、その後、石油ショックも乗り切り順調に港勢の拡大は進み、北海道の経済を支え東京以北で最大の港湾となった。苫小牧港の構想は、大正13年に遡るが、現在の苫小牧港の基となる港湾計画は昭和27年に策定される。一方、建設には漂砂抑制や大規模掘り込みなど、新しい港湾建設技術が必要とされ多くの先人の苦勞により、現在の苫小牧港は成り立っている。

講演では、港湾管理者である苫小牧市長から苫小牧港にかける思いを語る。続いて、苫小牧港の構想から計画への推移、漂砂調査と実験、漂砂抑制技術、第一船入港の歓び、その後の苫小牧港発展の過程と現在の苫小牧港と未来への展望について講演する。

主催：(一社)建設コンサルタンツ協会

後援：(公社)土木学会